

委員からの質問・意見への回答

(資料の見かた)

- 各委員が出された質問・意見は四角囲いの中に記入しています。
- 四角囲いの下に、長崎大学等の回答を書いています。
- 回答者としては、長崎大学、長崎県、長崎市となっています。

目次

(1) 梶村龍太・道津靖子・神田京子委員 提出.....	3
(2) 山下 肇 委員提出	38

(1) 梶村龍太・道津靖子・神田京子委員 提出

今年に入って、新型コロナウイルス感染拡大はパンデミックという深刻な事態を引き起こし、日々多数の感染者が増え続け、医療や地域経済に甚大な被害を及ぼしています。このような状況下、レベル4の研究施設であるBSL4施設の建設が進行していることに対して、住民からは、施設の必要性に対して、不安と疑問をこれまで以上に抱くようになったという声を聞くようになりました。

私たち委員は、このような事態だからこそ、新型コロナウイルスによる住民の意識変化を尋ねて、BSL4施設についてアンケートを取ることは必要不可欠なもの判断して、平野町山里自治会と山里中央自治会の住民に対して、「賛成・反対ではなく、住民の思いを知り、住民に寄り添ったアンケート」を企画、6月に実施致しました。529人に配布、277人から回答をいただき、回答率は52.4%でした。アンケートの結果は添付資料に記載の通り、グラフで表現すると共に分析を行っています。又、住民の貴重なご意見も、すべて添付資料に記載していますので、是非、最後まで読んでいただきますようお願い致します。

アンケートから明確になった住民の皆様の思いは、私たちがこれまで地域連絡協議会において繰り返し提言し続けてきた重要な課題です。長崎大学は、これらの多くの要望に誠意をもって対応していただくようお願い致します。

1. 住民アンケートの分析からは、大学の安全性に対する説明に対し、住民が納得できていないことが伺えます。施設はそもそも安全なのだといくら説明されても、事故発生の確率が0になるわけではありません。0（ゼロ）ではない以上、事故時にどのような対応がなされるのか分からずに安心してくださと言われても無理です。

安全管理や事故対策について、詳細で実践的な対策を立て、しっかりと文書で示してもらいたいというのが、アンケートの分析から分かる住民の意思です。

そこで、大学に対して以下の要望を行います。

安全管理について詳細で実践的な対策を立て、文書で示すこと

① 施設の安全管理と危機管理対策：

住民向け安全管理マニュアルの作成

今後、2021年の施設完成までの間に施設の具体的な運用、安全管理の方法について議論がなされていきます。住民の声に耳を傾けて、具体的で詳細な基準を持った住民の不安感を払しょくできる安全管理マニュアルを作成してください。そして、近隣自治会の住民に配布してください。

② 想定される事故と対応策：

- (1) 事故発生時の住民向けマニュアルの作成
- (2) 緊急時の連絡方法を文書で示す
- (3) 緊急時の避難計画を文書で示す

これまで事故が発生した場合の対応策については、ほとんど議論されてきていません。万が一の時にどうすればよいのか、どうなるのかが分からずに安心して施設の近くで生活をすることはできません。事故発生時の具体的な対応と十分な情報の開示とを内容とした、事故

発生時の住民向けマニュアルを作成してください。そして、近隣自治会の住民に配布してください。

③ 住民に被害が生じた場合の補償内容を文書で示す：

事故発生時の責任の明確化と補償についての取り決めを行うこれまで大学からは、事故が発生したときに、どこが責任をとり、補償をどうするのか、具体的な提案はありません。そろそろ、具体案を出してください。

④ 住民との継続的なコミュニケーション：

運用開始後の情報開示・意見交換・相互理解の場の設定

- (1) 継続的に意見を述べる場を設ける
- (2) 正確な情報開示を行う
- (3) 継続的な住民の健康診断を行う
- (4) 継続的な住民の避難訓練を行う

施設建設は、終わりではなく、これからの長い付き合いの始まりです。今後も住民との相互理解を深めるために、情報開示の仕組みをつくり、意見交換の場を設けるとともに近隣自治会住民に対する定期健康診断の無料開催など、不安を取り除き、相互の風通しを良くするための方法を検討ください。

2. 今回の住民アンケートでは、『施設は必要かもしれないが、何故住宅密集地に造るのか？納得できるような回答は未だ得られていない』といった意見が非常に多く寄せられました。長崎大学は、これまで住民の理解を得るための多くの説明会等を行い、最近では住民の理解も進んできている、と述べています。

しかし、アンケート結果から、多くの住民の方々が未だに疑問や不安、不信感を抱いていることは明らかであり、長崎大学の見解とは大きな乖離があると思われます。

計画をゼロベースで見直し、立地を変更するといったことが現実的でないとするならば、長崎大学は、少なくとも今回私たちが提言した要望事項について、これから十分な検討、議論を行い、その結果を住民に示していただきたいと思います。

このことが、大学と住民との良き関係をつくることであり、まさに、『合意形成をする』ことだと考えます。

自治会、住民の代表として、長崎大学の誠意ある対応を切に希望します。

3. 文部科学省の監理委員会へも本意見書を提出してください。そして、そこで議論された結果をお知らせください。

長崎県、長崎市は、長崎大学との三者協議会を通じて、今後どのようにBSL4施設の安全等に関与していくのか、その方針も示してください。

以 上

(長崎大学の回答)

1. ① 施設の安全管理と危機管理対策について

本学 BSL-4 施設に係る安全管理マニュアルにつきましては、その骨子を本協議会で数度に渡ってご説明してきました。現在、それらの細部を詰め、当該施設の完成（令和3年夏）までに素案をまとめる予定です。その後、実際に完成した施設において、その素案が適切であるか十分に時間をかけて実地での検証を行い、完成させる予定です。完成後、安全管理マニュアルの概要を本協議会にてご報告させて頂くとともに、ホームページでも公開させて頂きます。

ちなみに、本学 BSL-4 施設でエボラ出血熱等の特定一種病原体等を所持し実験を行うためには、法律に基づく厚生労働大臣による指定を受けなければなりません。そのためには法律に定められた感染症発生予防規程を作成し、それに基づいて施設を運用できることが国から求められます。この国の指定を受けるにあたり、審査を受けることになる感染症発生予防規程が本 BSL-4 施設の安全管理マニュアルになります。

なお、本学 BSL-4 施設が感染症法に基づく厚生労働大臣の指定を受けて特定一種病原体等を持ち込むまでの期間に、施設でそれ以外の病原体（例えば研究用でこれまでも学内で用いられているウイルス）を取り扱う場合については、現行の本学の規則に従って、適切に取扱います。

1. ② 想定される事故と対応策について

これまで本学 BSL-4 施設で発生しうる事故等についてリスク評価を行って参りましたが、広く当該施設から離れた住宅地まで被害が及ぶ、例えば避難が必要となるような事態は想定し難いところです。しかしながら、今後も当該施設で起こりうる感染事故等について、諸外国の事例を参考に等、引き続きその対応を検討して参ります。施設内で事故等が発生した場合の情報開示、近隣住民の方々へ伝達すべき事項及びその伝達方法等についても、引き続き検討を行い、対応方法を取りまとめ本協議会にてご報告させて頂きます。

1. ③ 住民に被害が生じた場合の補償内容を文書で示すについて

これまででもご説明させて頂いた通りですが、事故発生の際は、長崎大学が一義的な責任を有する、という点は明確になっております。万が一の事故等により、近隣住民等に経済的被害が発生し、その被害に対する補償が必要となる対応についても、長崎大学が設置主体としての責任を負うこととなります。その際、長崎大学のみでの対応が困難な場合には、国が必要な支援を行うこととなっております。

1. ④ 住民との継続的なコミュニケーションについて

ご意見をいただいた通り、施設建設で終わりではなく、地域のみなさまとの長いお付き合いは、その後も続いていくものと私たちも考えております。前回の地域連絡協議会でも調議長が触れましたように、今後も、みなさまとの相互理解を深めるために意見交換の場を設けてまいりますし、必要な情報を適時にお伝えできるように、検討を進めてまいりたいと考えております。

2について

長崎大学としては、引き続き、地域連絡協議会の場で議論させて頂き、地域住民の皆様と良き関係が構築出来るよう真摯に対応していきます。

3について

(長崎大学の回答)

ご提出いただきました本意見書の文部科学省監理委員会への提出要請につきましては、文部科学省と相談した結果、次回監理委員会に提出することといたしました。

(長崎県の回答)

今後も継続して行われる協議の場などを通じて、世界最高水準の安全性を備えた施設となるよう必要な取り組みを行っているか、引き続き、注視するとともに、地域住民の不安が解消されるよう、関係機関と連携協力していきたい。

(長崎市の回答)

三者連絡協議会は、BSL-4施設の設置にあたり、課題の明確化とその対応等について協議することを目的としております。

長崎市としましては、今後も長崎県とともに、長崎大学の「安全性の確保」及び「市民の理解」へ向けた取り組みがしっかりなされているか確認しながら、住民の安全安心のため、地元自治体として側面からの支援を行ってまいりたいと考えております。

長崎大学への要望書

地域連絡協議会委員
梶村龍太、道津靖子、神田京子

住民アンケート（2020年6月実施）の結果報告及び
アンケート結果に基づく長崎大学への要望書

平野町山里自治会
山里中央自治会

1. はじめにーアンケート実施理由

長崎大学は多くの周辺自治会が、「住民の合意と理解を得ることが必須条件」と要望していたにもかかわらず2019年1月にBSL4施設の建設を開始しました。住民の不安は置き去りのまま着工となったことで、大学への信頼がさらに薄れたと感じ、とても残念でした。

せめて事業主体である長崎大学に、「賛成・反対のアンケートでは無く、住民の不安に寄り添うようなアンケートを実施して欲しい」と、地域連絡協議会や個別の協議で何回も要望をしてきましたが、残念ながら聞き入れてもらえませんでした。

そのような状況下、新型コロナウイルスという新たな感染症の世界的流行、パンデミックという深刻な事態が発生しました。もちろん長崎県、長崎市においても、新型コロナの問題は市民生活、そして地域経済に甚大な影響を及ぼしています。

そこで、新型コロナウイルスによる住民の意識の変化を尋ねて、アンケートを取ることは必要不可欠なもの判断し、両自治会主催で実施しました。

2. アンケート実施

アンケートは、平野町山里自治会・山里中央自治会で企画し、両自治会と近隣自治会住民を対象として、6月に実施しました。アンケート用紙529枚を配布、277人から回答をいただきました。回答率は52.4%でした。

3. アンケート結果について

アンケート結果の詳細については、次頁以降の集計表とグラフをご覧ください。

具体的なお意見に関しては、すべて原文のまま記載しています。長崎大学をはじめ、国、県、市、協議会の皆様には、是非とも各自の意見の全文を読んでいただきたいと思っております。そこには住民の皆さんの真剣な思いが綴られています。

長崎大学の「BSL-4施設」建設についての自治会アンケート取り纏め表

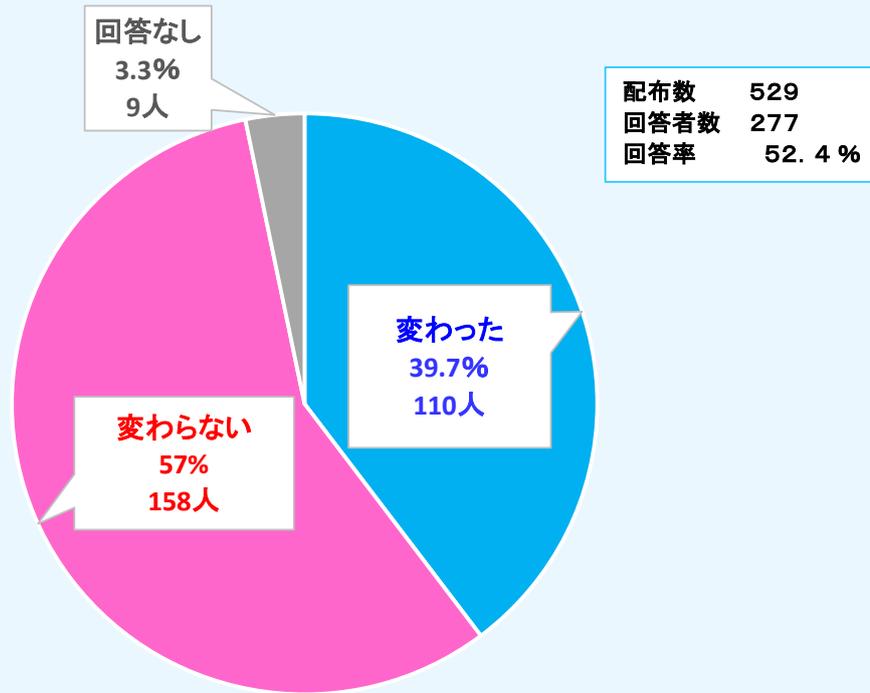
アンケート529枚配布 回答数 277 回答率 52.4%

回答人数

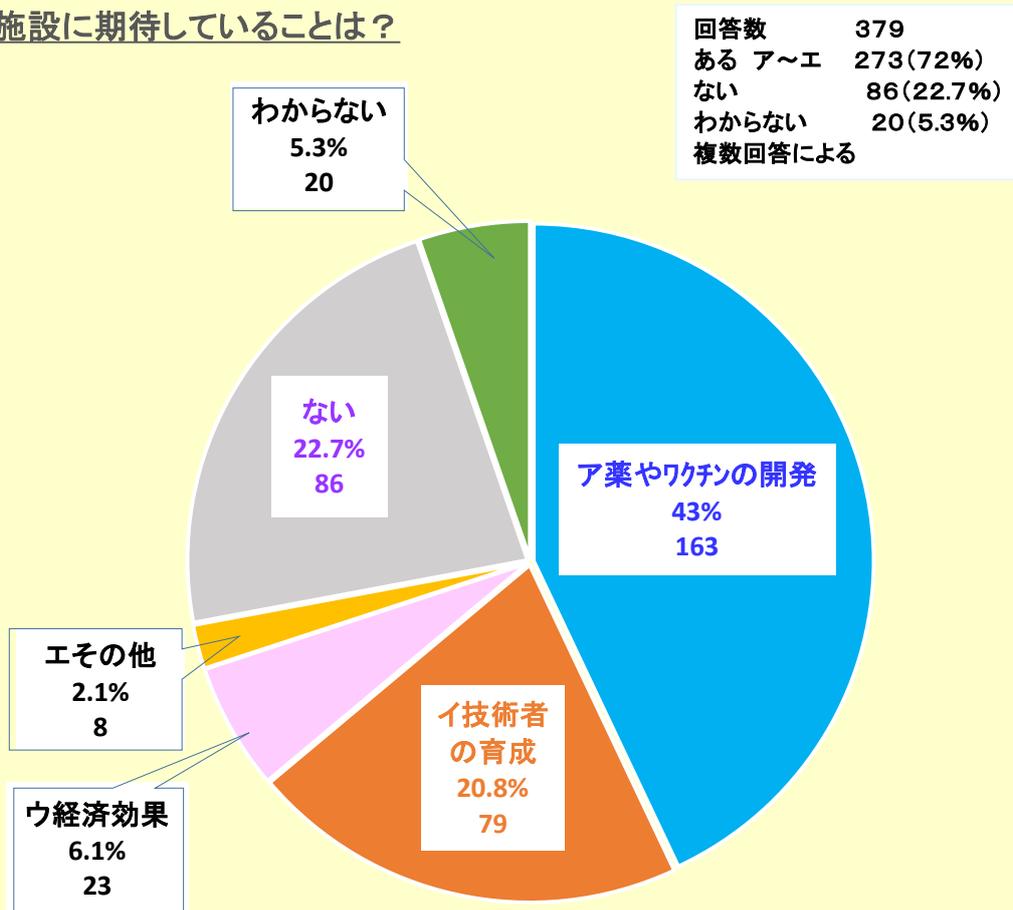
アンケート回答数

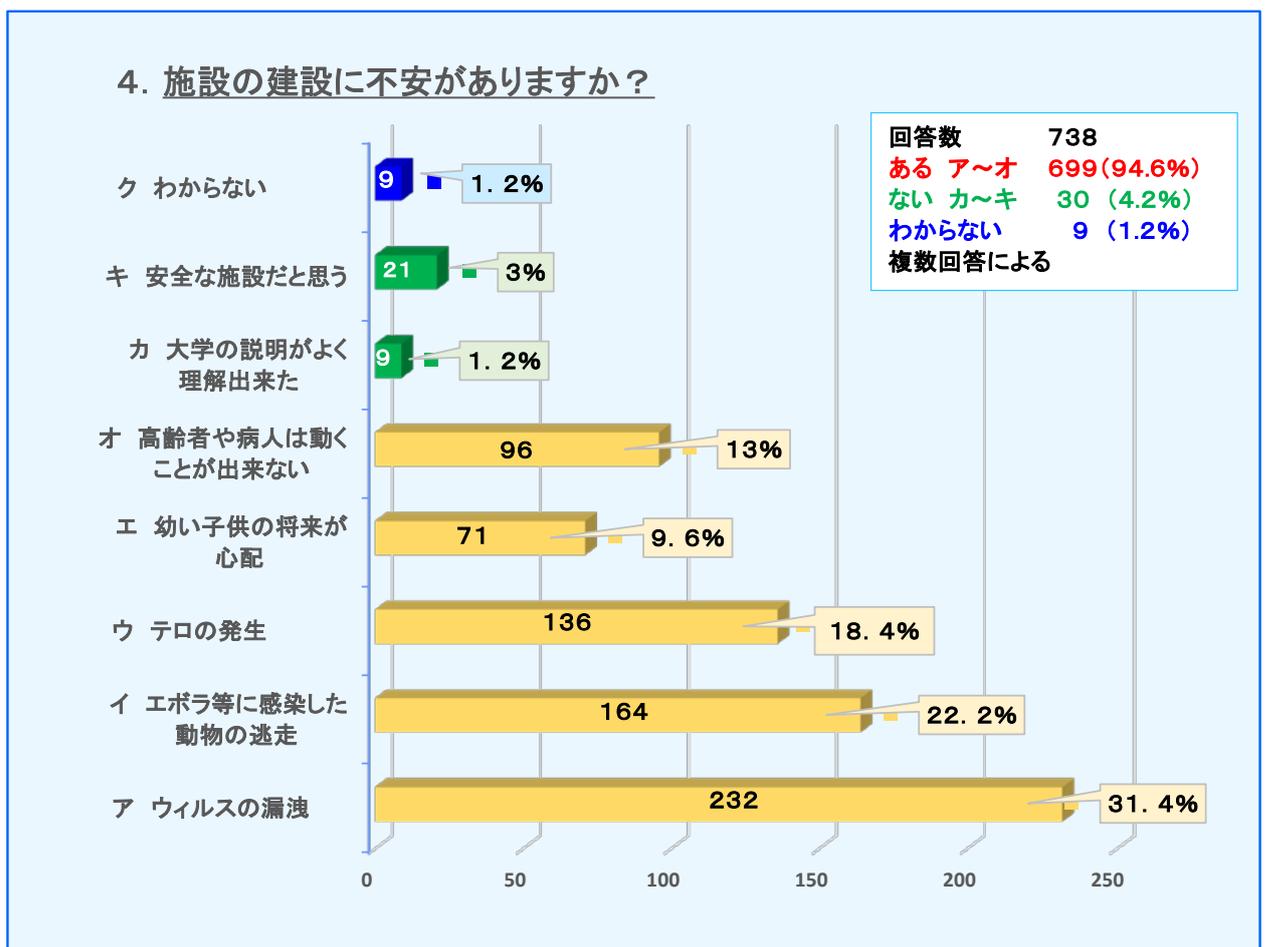
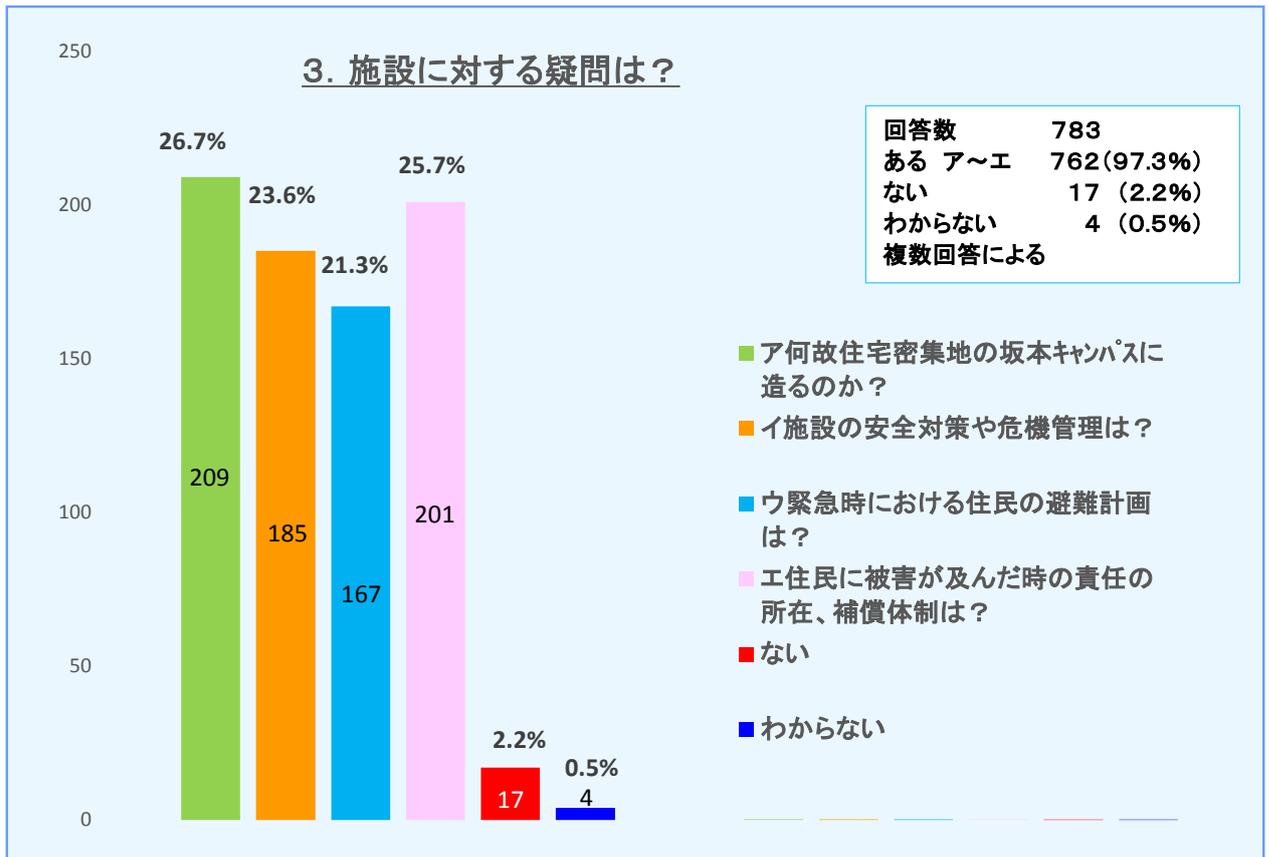
		回答者	回答人数	回答率	アンケート回答数	回答率	
1. コロナ感染拡大後のBSL-4施設への意識変化は？					277		
1-①変わった	変わった				110人	39.7%	
1-②変わらない	変わらない				158人	57.0%	
	回答なし				9人	3.3%	
2. 施設に期待していることは？		回答者	277人		379		
2-① あるア	ア 薬やワクチンの開発	ある	171人	61.7%	163	43.0%	273
2-① あるイ	イ 技術者の育成				79	20.8%	72.0%
2-① あるウ	ウ 経済効果				23	6.1%	
2-① あるエ	エ その他				8	2.1%	
2-② ない	ない	ない	86人	31.0%	86	22.7%	
2-③ わからない	わからない	わからない	20人	7.3%	20	5.3%	
3. 施設に対する疑問は？		回答者	277人		783		
3-①あるア	ア 何故住宅密集地の坂本キャンパスに造るのか？	ある	256人	92.5%	209	26.7%	762
3-①あるイ	イ 施設の安全対策や危機管理は？				185	23.6%	97.3%
3-①あるウ	ウ 緊急時における住民の避難計画は？				167	21.3%	
3-①あるエ	エ 住民に被害が及んだ時の責任の所在、補償体制は？				201	25.7%	
3-②ない	ない	ない	17人	6.1%	17	2.2%	
3-③わからない	わからない	わからない	4人	1.4%	4	0.5%	
4. 施設の建設に不安がありますか？		回答者	277人		738		
4-①あるア	ア ウィルスの漏洩	ある	246人	88.9%	232	31.4%	699
4-①あるイ	イ エボラ等に感染した動物の逃走				164	22.2%	94.7%
4-①あるウ	ウ テロの発生				136	18.4%	
4-①あるエ	エ 幼い子供の将来が心配				71	9.6%	
4-①あるオ	オ 高齢者や病人は動くことが出来ない				96	13.0%	
4-②ないア	カ 大学の説明がよく理解出来た	ない	22人	7.9%	9	1.2%	
4-②ないイ	キ 安全な施設だと思う				21	2.9%	
4-③わからない	ク わからない	わからない	9人	3.2%	9	1.2%	
5. 大学に要望することは？		回答者	277人		1261		
5-①あるア	ア 想定される事故の内容と対応策を文書で示す	ある	252人	91.0%	193	15.3%	1236
5-①あるイ	イ 住民に被害が生じたときの補償内容を文書で示す				172	13.6%	98.0%
5-①あるウ	ウ 施設の安全管理と危機管理対策を文書で示す				164	13%	
5-①あるエ	エ 緊急時の住民への連絡方法を文書で示す				148	11.7%	
5-①あるオ	オ 緊急時の住民の避難計画を文書で示す				139	11%	
5-①あるカ	カ 継続的に住民の避難訓練を行う				71	5.6%	
5-①あるキ	キ 継続的に住民の健康診断を行う				85	6.7%	
5-①あるク	ク 住民が継続的に意見を述べる機会を作る				111	9%	
5-①あるケ	ケ 住民への説明・報告等正確な情報開示を継続的に行う				153	12.1%	
5-②ない	ない	ない	16人	5.8%	16	1.3%	
5-③わからない	わからない	わからない	9人	3.2%	9	0.7%	

1. コロナ感染拡大後のBSL-4施設へ意識の変化は？



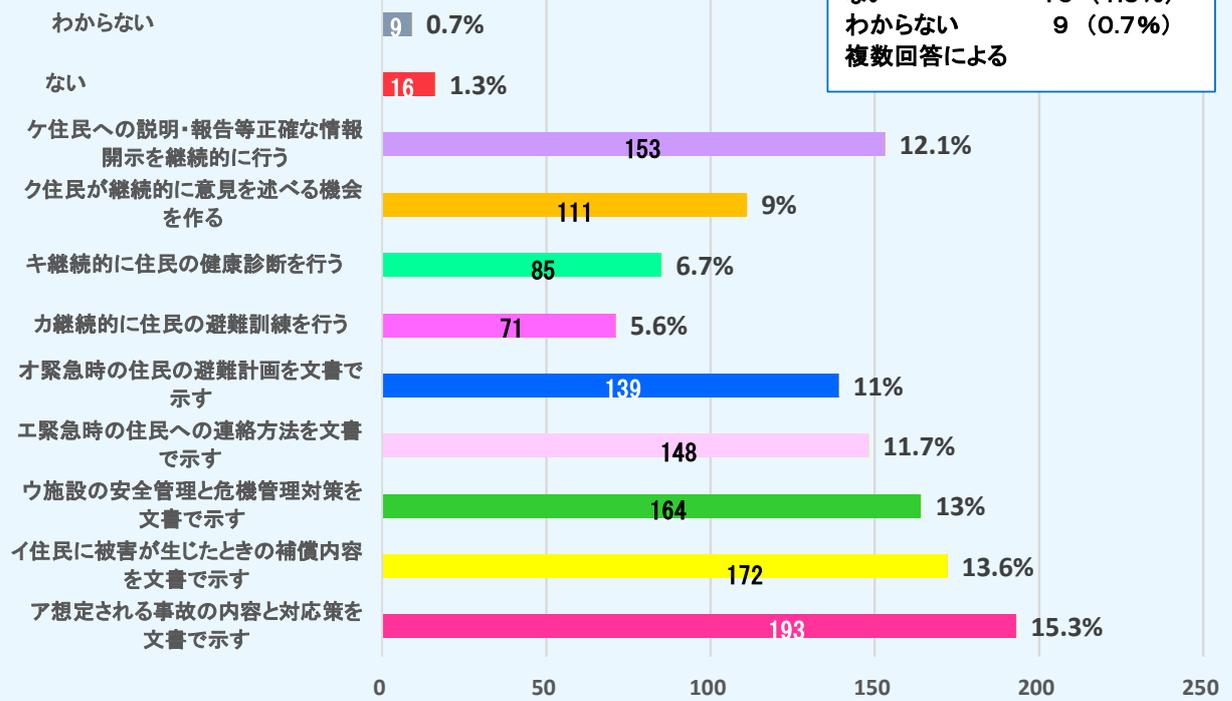
2. 施設に期待していることは？





5. 大学に要望することは？

回答数 1261
 ある ア～ケ 1236(98%)
 ない 16 (1.3%)
 わからない 9 (0.7%)
 複数回答による



以下、アンケート各質問の回答について分析を加えます。

質問1 コロナ感染拡大後のBSL4施設への意識変化は？

回答者 277人 回答件数 268

意識が変わったと答えた人は110人、変わらないと答えた人は158人、回答無しが9人でした。

この質問については、人数より個別の具体的な意見が重要だと考えます。そこには、住民の皆さんの意識がどのように変化したのか、ということがよく表れているからです。

全体的には、新型コロナで『BSL4施設は必要かもしれないと思うようになった』という変化と、『BSL4施設に反対する気持ちがますます強くなった』という変化という、大きく二つの変化がありました。

意見の数からは、『新型コロナ後、BSL4施設に対する住民の期待はあるものの、施設に対する不安や反対の声は以前よりむしろ一層強まっているのではないか』ということが見て取れます。

質問2 施設に期待していることは？（複数回答あり）

回答者 277人 回答件数 379

『期待する』と答えた人は171人（61.7%）で、『期待することはない』と答えた人は86人（31%）、『わからない』は20人（7.3%）でした。

『期待する』の4項目に合計273の回答があり、最も多かったのが『薬やワクチンの開発』の163回答、次いで『技術者の育成』の79回答、計242回答で、この2項目で『期待する』全体の9割近くとなっています。

施設建設に肯定的な人も否定的な人も、少なからず期待していることがあり、その中でも、特に薬やワクチンの開発、技術者の育成については、『ウィルスの脅威に対して多くの方が大学の先進技術を駆使して、研究を行い人々の命を守るという使命を果たす事を望んでいる』ということであろうと考えます。

一方、『期待する』とした回答者のほとんどが、同時に、BSL4施設に対して『疑問』や『不安』、そして『要望』があると回答しています。

質問3 施設に対する疑問は？（複数回答あり）

回答者 277人 回答件数 783

『疑問がある』と答えた人は256人（92.5%）で、『疑問はない』が17人（6.1%）、『わからない』が4人（1.4%）でした。

『疑問がある』の4項目に合計762の回答があり、『疑問がある』については4項目全般に多くの方が回答しています。このことは、いまだに施設に対する多くの住民の疑問が払しょくされていないことを示しています。

質問4 施設の建設に不安がありますか？（複数回答あり）

回答者 277人 回答件数 738

『不安がある』と答えた人は246人（88.9%）で、『不安はない』との回答は22人（7.9%）にとどまり、『わからない』と回答した人は9人（3.2%）でした。この結果からは、住民の大多数がBSL4施設に対して不安を感じているということが端的に示されました。

『不安がある』の5項目に699の回答があり、『ウィルスの漏洩』が232回答、『エボラ等に感染した動物の逃走』が164回答、『テロの発生』が136回答であり、この3項目の合計が532回答と、全体の約76%になっています。

つまり、不測の事故、あるいはテロ行為によってエボラ等の危険なウィルスが施設外に漏出して、感染拡大が起きるかもしれない不安を抱き日々怯えながら暮らしていかなければならない事を非常に心配しています。今回、コロナのパンデミックにより、国も地方自治体も感染症専門家もWHOでさえも、頼りにならない事を多くの国民が知り、レベル4のエボラ出血熱の場合は、どれだけ脅威になるのかわからないという不安があるということです。

質問5 大学に要望することは？（複数回答あり）

回答者 277人 回答件数 1261

『要望がある』と答えた人は252人（91%）で、『要望はない』と答えた人は16人と、回答した277人の（5.8%）でした。また、『わからない』との回答は9人（3.2%）でした。

『要望がある』の9項目には実に1,236もの回答があり、多かったのは『想定される事故の内容と対応策を文書で示す』の193回答、次いで『住民に被害が生じたときの補償内容を文書で示す』の172回答、『施設の安全管理と危機管理対応策を文書で示す』の164回答でした。

質問6 その他、ご意見（別紙）

質問1、質問2へのご意見とその他のご意見について、住民の皆さんの真剣な思いが綴られております。長崎大学に対する厳しい意見も多くありますが、全てをお読みいただき住民の要望に正面から向き合って対応していただくことを望みます

4. 分析結果のまとめ

以上の通り、住民アンケートからは住民の方々のBSL4施設に対する期待と不安とが浮かび上がります。

① 質問2からは、多くの住民がBSL4施設での研究の意義を一定程度認めるものの、同時に様々な疑問、不安、要望をもっていることが分かります。施設の意義は意義として認めながら不安を感じているのです。このような素朴な不安に対して丁寧に応えて、不安を払拭できる方法を工夫することが、設置者の責務です。

② 質問3からは、90パーセントの回答者が施設に疑問をもっていることが分かります。『何故住宅密集地の坂本キャンパスに造るのか?』という計画当初からの疑問や、施設の安全対策・危機管理といったこれまでのメインテーマについて今もお、住民が疑問を持ち続けていることが明確に表れています。

加えて今まで大学が回答を控えてきた事故発生時の「補償」「責任」といった問題に対する関心の高さが分かります。

③ 質問4からはこれまでの大学の説明が不安感を拭うには、不十分だったことが分かります。大学は、これまで説明会等で、『研究者が針刺し事故等で感染することはあっても、住民に感染拡大することはまずありえない。エボラウィルスは空気感染しないし、ウィルスは紫外線ですぐに不活化するから、住民の言っている事は杞憂に過ぎない。』といった説明を繰り返してきました。しかし、新型コロナウイルスに関する報道などに触れ、ウィルスが紫外線で簡単に不活化するという説明を信じることはできません。

このような絶対安全主義ともいえるべき説明に終始し、万が一の場合の対策の策定を怠ったことが住民の不信感につながったのではないのでしょうか。

④ 質問5の9項目はすべて、私たちがこれまで、地域連絡協議会において繰り返し提言し続けてきた重要な課題です。長崎大学は、これらの住民からの多くの要望に、誠意をもって対応して下さい。

1. 安全管理について詳細で実践的な対策を立て、文書で示すこと

- ① 想定される事故と対応策(ア)
- ② 施設の安全管理と危機管理対策(ウ)
- ③ 緊急時の連絡方法を文書で示す(エ)
- ④ 緊急時の避難計画を文書で示す(オ)
- ⑤ 継続的な住民の避難訓練(カ)
- ⑥ 継続的な住民の健康診断(キ)

2. 住民に被害が生じた場合の補償内容を文書で示す(イ)

3. 住民との継続的なコミュニケーション

- ① 継続的に意見を述べる場を設ける(ク)
- ② 正確な情報開示を行う(ケ)

5. 長崎大学に対する要望

住民アンケートの分析からは、大学の安全性に対する説明に対し、住民が納得できていないことが伺えます。施設はそもそも安全なのだといくら説明されても、事故発生確率が0になるわけではありません。0ではない以上、事故時にどのような対応がなされるのか分からずに安心してくださと言われても無理です。

安全管理や事故対策について、詳細で実践的な対策を立て、しっかりと文書で示してもらいたいというのが、アンケートの分析から分かる住民の意思です。そこで、大学に対して以下の要望を行います。

① 住民向け安全管理マニュアルの作成

今後、2021年の施設完成までの間に施設の具体的な運用、安全管理の方法について議論がなされていきます。住民の声に耳を傾けて、具体的で詳細な基準を持った住民の不安感を払しょくできる安全管理マニュアルを作成してください。そして、近隣自治会の住民に配布してください。

② 事故発生時の住民向けマニュアル

これまで事故が発生した場合の対応策については、ほとんど議論されてきていません。万が一の時にどうすればよいのか、どうなるのかが分からずに安心して施設の近くで生活することはできません。事故発生時の具体的な対応と十分な情報の開示とを内容とした、事故発生時の住民向けマニュアルを作成してください。そして、近隣自治会の住民に配布してください。

③ 事故発生時の責任の明確化と補償についての取り決め

これまで大学からは、事故が発生したときに、どこが責任をとり、補償をどうするのか、具体的な提案はありません。そろそろ、具体案を出してください。

④ 運用開始後の情報開示・意見交換・相互理解の場の設定

施設建設は、終わりではなく、これからの長い付き合いの始まりです。今後も住民との相互理解を深めるために、情報開示の仕組みをつくり、意見交換の場を設けるとともに近隣自治会住民に対する定期健康診断の無料開催など、不安を取り除き、相互の風通しを良くするための方法を検討ください。

6. 結び

今回の住民アンケートでは、『施設は必要かもしれないが、何故住宅密集地に造るのか？ 納得できるような回答は未だ得られていない』といった意見が非常に多く寄せられました。

長崎大学は、これまで住民の理解を得るための多くの説明会等を行い、最近住民の理解も進んできている、と述べています。

しかし、アンケート結果から、多くの住民の方々が未だに疑問や不安、不信感を抱いていることは明らかであり、長崎大学の見解とは大きな乖離があると思われます。

計画をゼロベースで見直し、立地を変更するといったことが現実的でないとするならば、長崎大学は、少なくとも今回私たちが提言した要望事項について、これから十分な検討、議論を行い、その結果を住民に示していただきたいと思えます。

このことが、大学と住民との良き関係をつくることであり、まさに、『合意形成をする』ことだと考えます。

自治会、住民の代表として、長崎大学の誠意ある対応を切に希望します。

7. その他

文部科学省の監理委員会へも本意見書を提出してください。そして、そこで議論された結果をお知らせください。

長崎県、長崎市は、長崎大学との三者協議会を通じて、今後どのようにBSL4施設の安全等に関与していくのか、その方針も示してください。

以 上

住民アンケート意見書

長崎大学の「BSL-4施設」建設についての自治会アンケート取り纏め表

1. コロナ感染拡大後のBSL-4施設への意識変化は？	
1-① 変わった（具体的に）	
1	ウィルス漏れの恐怖と不安
2	施設は必要 未来のために役立つ
3	必要かもしれない
4	今までも住宅地に建設するのはとんでもないことと思っていたが、それがさらに増した！！
5	薬やワクチンの開発、技術者の育成に期待することが明らかになった。
6	民家のすぐ横に施設建設をする事について反対でしたがコロナのウィルス拡散でますます反対の気持が高まった。
7	ウィルスは恐ろしい事の再認識
8	目に見えないウィルスに、こわいと思ったため。
9	未知の感染症に対する研究がまだまだ重要であることを実感した。 感染症に関する研究は自分たちにも関係しうることなのかと感じた。
10	必要性も感じた
11	目に見えないウィルスの怖さ、不安を実感
12	感染症に対する最先端の研究が必要。長崎がリーダーシップを取って取り組んで欲しい。製薬会社などの誘致につなげてほしい。
13	必要と思うようになった。 未知のウィルスが発生した時に研究、ワクチン開発を専門的に実施する施設は必要と感じた。

住民アンケート意見書

14	コロナでの長大の活躍。ランプ法（ウィルス検出）の開発、クルーズ船対応。専門家がいることの安心感。
15	薬やワクチンの開発を期待する
16	出入りする研究者の人達が感染した場合コロナみたいに人から人へ拡大すると思う蚊や動物など外部に出た場合エボラ熱だったら蚊からでしょう 恐いですネ
17	更におそろしい！！不安。
18	新型コロナがもたらした災禍に、ウィルスの脅威tというものをまざまざと見せつけられた。 日本国内に存在しない、かつ致死率の高いエボラウィルスなど持ち込むべきではない！！
19	現実的に危機感を感じるようになった。
20	まだ施設の受け入れの気持ちは持てませんが、必要なものかもしれないと感じる様になりました。
21	元から反対していないことは変わらない。
22	やはり…武漢の施設からのウィルスの漏れでは…？という報道で凄く怖くなった。
23	新型の感染症に対する研究と対応策の必要性を改めて感じた。
24	長崎大学の感染症対策について見直しました。
25	より危険な事が認識した
26	不安はありますが今後のためにもウィルスを研究する施設は必要だと思うようになりました。
27	以前よりこわくなった。
28	コロナウィルスで制限がある生活をしたのにBSL4施設にもしものことがあった場合はどう生活していくのか、その場合の補償は？

住民アンケート意見書

29	施設建設についての考えは変わらない。 浦上地域全自治会がBSL-4施設建設に反対して7年の月日がたちますが、大学側、特に学長、副学長ともにおわびの言葉もない
30	コロナウィルスの事よりも、BSL-4施設建設について町内皆様の力で又近隣浦上住民の力で勝ち取れなかったことが残念ですが（終わったわけではないですが）
31	ウィルスの漏れの可能性のあること
32	ウィルスの恐怖を改めて感じ、BSL-4施設建設に不安が募ってきた。
33	住宅密集地に建設はしてはいけない。人工島など海を隔てたところに建設すべきである。長大の建設は中止すべきである。住民の命の優先がないがしろにされ、研究ありき建設ありきである。長大にBSL-4はいらない。非住宅密集地に作ればよい。止めてくれ。
34	BSL-4建設は早く中止すべきである。と改めて強く思う。海を隔てた場所、すなわち島に建設すべきである。住宅密集地に作らせてはダメだ。
35	目に見えない細菌やウィルスへの脅威を、今まで以上に強く感じるようになりました。
36	増々危険な施設を建設していると認識し直した
37	より作って欲しくないと思った
38	ウィルスの感染力の恐怖を実感したので、研究所施設の重要性を実感
39	広がる感染を抑止する研究をしてほしい
40	コロナウイルスを全滅する研究をしてほしいが、場所は反対である
41	少し怖い
42	場所がおかしい

住民アンケート意見書

43	目に見えないウイルスは感染するとどんなに気をつけていても広がっていく、危険性の高い病原体を扱う施設が自分の住んでいる所にあると思うと不安になります。
44	より不安を感じるようになった。
45	もしもウイルスが漏れた場合、どうなるのかなと、とても心配になる。
46	感染症の権威がいるから長崎大学にというお話でしたが、クルーズ船が長崎に停泊した際に、県民すべてが恐怖感を抱いた感と相反する様が見られ、やはり長崎市内ではない郊外が望ましいと思う。
47	恐怖を感じた。安心、安全に暮らせない、もっと郊外に移転してほしい。
48	毎日の生活が恐怖で安心して生活できない事が何より不安です。
49	ウイルスの脅威
50	不安が大きくなった
51	火元である中国の武漢には研究所があるので不安です。
52	感染症の専門家がいると、非常時の対応が速いのではないかと考えるようになった。
53	武漢ウイルスと言うように、BSL-4施設からの感染は恐怖をおぼえる。
54	周囲の警戒心が高まることを期待しています。武漢流出説があるので。
55	研究して下さってることは、本当に尊いことですので素晴らしいのですが、一方でやはり研究員の方々の体調、ご家族の方々が心配になりました。しっかりと感染対策がなされたり、優遇して検査が受けられたりがあったらいいなと思いました。
56	感染症の研究、薬の開発は重要なことであると認識しました。が、立地に関しては、問題があるということは変わらない。
57	やはりBSL-4施設から菌がもれる可能性があるなので、建設反対に変わった。

住民アンケート意見書

58	以前から反対だし同じ気持ち
59	目に見えないウイルスの感染速度に恐怖を感じており、BSL-4施設のような研究施設の安全対策が十分に講じられているのか？、改めて検証すべきと考える。
60	危機感、恐怖感が増した
61	中国武漢のように施設が感染源（一部報道があったように）となると不安になる。
62	ウイルスの感染拡大のスピードの早さと、それに対処することの難しさ。
63	ウイルスの危険性、恐怖を改めて実感した。
64	今回のコロナで、BSL-4施設などが必要なのかなと思いました。
65	以前よりさらに目に見えないウイルスの怖さが増しました。
66	さらにリスクが高いものになると思った。
67	益々危機感を抱くようになった。
68	長崎大だけでBSL-4施設の管理ができない事を確信した。
69	新型コロナウイルスよりBSL-4がこわいと思う。
70	今回の新型コロナウイルス漏れの元凶と疑われている武漢の研究所の存在を知り、恐さが増した。
71	ますます「危ないのでやめるべきだ」の気持ちが大きくなった。
72	怖い施設とは思っていたが、コロナをうけて「とてもいやだ」と変わった。

住民アンケート意見書

73	絶対作ってはいけないという気持ちは更に強くなった。
74	危険な動物実験施設であり、これまでも反対してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大でますます危険性が増している。
75	ますます強く反対意識を深めた。
76	感染拡大に手も足も出ないことがわかった。危険性はすべて想定内だった。
77	不安しかない！
78	もとより、危険と思っていたが、ウイルスの脅威をよりリアルに感じた。高齢者や病人は万が一の時、今回のコロナの犠牲者多数。
79	i以前よりウイルスに大きな不安を持っていたが、コロナウイルスによって恐ろしさを知り、増々不安になった。
80	必要だと思った。
81	BSL-4施設そのものは必要だと思うが、市街地に建設するのはどうかと思う。
82	不安！
83	より怖いものだと思った。
84	より危険性を感じるようになった。
85	このような時に必要なのかな。長崎大のオリジナル検査などをしていた？アピールしているようだった。でも住宅密集でなくてもいいよね！？
86	反対（建設）
87	より不安を抱くようになった。

住民アンケート意見書

88	より危機感が増大した。
89	より身近に感じるようになった。
90	ずっと反対です。
91	恐怖と不安が増々強まった。
92	未知の感染症対策として研究する施設が必要である。
93	BSL-4の怖さが更に分かってきた。
94	今回の私達の社会は疫病に対して脆弱で有る事が解った。
95	更に他人事でなくなった。
96	感染症のこわさについて
97	今からは必要かなと思いました。
98	やはり、日本のセキュリティはあまい事が確認された。
99	今までは不安ばかりだったが、、コロナウイルスと言う目に見えないウイルスが出てきた事で、必要な施設なのでは？と思ってきました。
100	何かおきても、何も出来ないと分かったから。

住民アンケート意見書

2. 施設に期待していることは？	
2-① ある エ その他	
1	安全性
2	薬やワクチンの開発、技術者の育成に期待していることはあるが、もっと人里離れたところに建設するべき！！
3	施設に期待していることはある（薬やワクチンの開発）が、ただし不安である（安全性に！！）
4	世界一の研究施設に育ってほしいと思っています。ノーベル賞が出る様な。
5	施設に期待していることはない。 ここの地区でない所でしてほしい ← 民家・学校から離れる事
6	施設に期待していることはない。 施設に期待することは、②ない、であるが、仮に研究を行うにしても、それは人道的なものに限られるべきである。 軍事につながる様な研究は（テロ対策など、いかなる理由をもってしても）、長崎市民として絶対に許せない。 そのようなことはしないと住民と約束できるか？大学の回答を求める。
7	薬やワクチンの開発、技術者の育成には期待しているが、あくまでもBSL施設という意味で、坂本地区に作るBSLという事ではない
8	施設は住宅密集地でない場所のできる。研究優先で建設地を選んではいけない。住民の命ファーストであるべきだ。
9	国民の健康（強いて言えばです）
10	若者の勉学に対しては一種の効果を期待したい。

住民アンケート意見書

6. その他、ご意見	
1	武漢のようにならないように、対策を（安全、安心）講じて欲しい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・想定外の事が起きた時が困る。長大病院が近いので、ドクターヘリが事故を起こし、施設をこわすこともある。 ・減圧にしたり、何重もの管理をしても、それが絶対ということはない。 落雷があり、電気系統が全てダメになったりすることもある。 <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく、住宅地に建設することは絶対反対である。 これは、この近辺の住民だけの問題ではなく、長崎市民、県民の問題である。何か起こった時は、長崎はコロナどころではなく風評被害他で、とんでもないことになる！！！！
3	何が起こるか分からない、未知の施設であることから365日24時間体制で責任者（プロパー職員であり委託の警備会社ではなく）が常駐し有事に即応できるようにすべき。
4	安全管理が組織的にもしっかりしている原子力発電所でさえ、大事故を起こしたのに、一大学で安全管理がちゃんと出来るとは思えない。 このような町中に、BSL4施設を作るという発想自体が危機管理能力の無さを示しているように思える。
5	この先も人類におそい掛かるであろう、ウィルスとの戦いを考えれば、世界一と賞賛される、日本の建築技術を持って作られる立派な研究施設を長崎にと思って居ります。客船、コロナでも長大熱研の先生方が活躍されました。誇らしく思いましたよ。
6	エボラウィルス等、日本にないものをわざわざ日本に持ち込むのが解らない。現地で研究する事が一番だと思います。 今のコロナの広がりをみていたら、国や税関、空港、保健所、専門家等、民間より劣っている点が多く見受けられる。 この様な時代にこの地に持って来てほしくない！
7	BSL4の建設は必要なことだと感じている。 ①長崎大学が担うべき責務である。 ②感染症は長崎大学における強みの1つである。 ③強みのある大学がなければ（大げさでなく） → 大学の存続 長崎の就職 長崎の経済・発展に直結していくと思われる。 コロナで安全策を重要視してきたことでこれまでの感染状況はまもられてきた。
	ただし、安全策のみとっていると、長崎の経済は立ちゆかないとも感じている。 子供達を守るためにBSL-4を回避することが、最善策なのだろうかとの疑問に思う部分がある。 私達住民がBSL4を回避するならば、長崎大学&長崎を発展させる（存続させる）対策をうつべきである。個人的には代替案がない。従って、安全性の不安などリスクももちろんゼロとはいきれないがBSL-4建設自体は必要なことだと考える。

住民アンケート意見書

8	施設と地域は長く付き合いがないといけないのだから、その間一方的に不安や不信を与えるのではなく、何らか住民が得られるメリットはあるべき。 5. キの健康診断というのは、一つの方法として良いと思う。
9	大学への要望として、自衛隊が守って欲しい
10	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が重要（必要）である事は理解しているが、住宅密集地に建設する理由を説明して欲しい。人里離れた場所にできなかったのか。 ・テロ等の悪意を持った人が、ウィルスを持ち出し拡散させる恐れはないのか？ ・事故によるきちんとした補償があれば建設してもよいと思う。 ・長崎市は人口減少の問題もあるので働き場所を確保する意味でも必要と感じる。
11	人災がこわい。（人的ミス、管理の問題、テロ） チェック機能がどのようなかたちで働くのか。
12	不安は変わらない。 住環境の付加価値に対しても気になる。
13	既に建設中なので反対の横断マクは取りはずすべき、建設を応援したらどうか！！
14	私達夫婦は高齢者なので長く住みませんが、このマンションには、子供さん達が多くたぶん住んでいるのでやはり、施設が完成していざ稼働となった時、事故が一番心配です。 大学側には人命を一番に考えてほしいと思っています。
15	反対意見を言うと、嫌がらせをさせるのではないかと心配です。
16	<p>作ることを反対している訳ではなく、場所を考えてほしかった。 住民、大学の職員 学生のことを思うと心配、不安でたまらない。 すでに着工しているので、今更やめることが出来ないのであれば、いつも、絶対にありえない！！と言われて はっきりと答えてくれない万が一の時の対策をくわしく文書にて示してほしいです。今の時代 完璧はありえませんが。</p> <p>想定内ばかりではなく、想定外のことも考えて話してほしいです。不安でたまりません。 テロは命がけです何をするかわかりません！テロが一番心配です。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎大学の計画発表時（BSL4施設の坂本キャンパスへの建設）から、住民として反対する気持ちは変わらない。（研究の是非ではなく、住宅密集地に造る事に反対である） ・多くの住民の反対を無視して、長崎大学は建設に着工、工事は着々と進んでおり、来年には完成するという。 ・その一方で、施設の安全管理、事故対応、及び万が一の時の補償内容についてはまったく聞こえてこない。 ・長崎大学は、これらの山積した課題を解決できるのか。もしできなければ、施設を稼働する事は許されないのではないか。

住民アンケート意見書

18	<p>ウィルス感染拡大のニュース等を見て、先ず感じた事が、BSL4施設のあるこの街は武漢のようになり得るといふ恐怖感！！</p> <p>大学側の説明会では、空気中のウィルスは「太陽光紫外線で直ちに死滅するのだ」ということだった。</p> <p>この説明を折りにふれしてきた大学（死滅しないウィルスがある事は分かっていたはず）この事一つをとっても大学に対する不信感はますます募る。</p> <p>住民との要望（確約）事項を設定し、きちんと約束できるまでは稼働させるべきではないと思う。</p>
19	<p>建設自体はよほどの事がない限り、今さら白紙になる事はないのだと思う。</p> <p>であれば、建設後の安全に対する全般をしっかりとした上で、事前に万が一の際の補償の内容と責任の所在を明確にしてほしい。</p> <p>東北大震災の時がそうであったように100%の安全などありえない。</p> <p>「絶対に安全をおびやかすような事がないように万全の対策をとっている」等の絵空事のような説明はいらぬ！！</p>
20	<p>最近のコロナウィルス対策などに何か、役に立つことがあるのでしょうか？</p>
21	<p>5-①</p> <p>施設を建設してほしくない。</p> <p>住宅密集地にわざわざ造る必要はないのではないか。</p> <p>情報系の学部を大村市に移転させるのであれば、現地に固執せずに住民の危険性が少ない人家から離れた場所に設けてほしい。</p> <p>長崎大学の存続のために近隣住民を巻き込むのはやめていただきたい。</p> <p>施設の意義と設置場所をどこにするかは別問題。</p> <p>一体化が望ましいと主張するのであれば、病院機能の一部も一緒に切り離して、別の場所に研究施設を設けたら良いと考える。</p>
22	<p>不動産の価値が下がった場合、大学が責任をもって補償してほしい。</p> <p>（施設を建設することでマンションの価値が下がることが予想される）</p> <p>その場合、どういう考えをもっているのか、文書で示してほしい。</p>
23	<p>この地区の住民に施設の公開（完成してすぐ）とかは無いですでしょうか？</p>
24	<p>安全を重視していただきたい。</p>
25	<ul style="list-style-type: none"> ・学長が私財を投げ売ってでも「BSL4施設を建設したい」「住民への補償をしたい」という気概がまったく感じられない。 ・感染拡大、事故を目論む悪意のある者を阻止できるのか不安。
26	<p>本当に大変なことだと思います。</p> <p>どうぞ宜しくお願い致します。</p>

住民アンケート意見書

27	<p>①人が管理する事であり、完全に絶対はない ②BSL4は必要ないと聞いている ③人間は自分の立場を考えて常にかくそうとする ↓ ④チェックする外部機関が必要</p>
28	<p>施設の必要性を感じるようになりました。両方歩みよらなければと… 他の場所でも、という思いはありますが、長崎の経済を考えるとこの場所でもしかたがないのではないのでしょうか。 このままでは長崎はどうなってしまうのでしょうか？ 誇れるものがあつたら良いと思います。 薬やワクチンの開発、未知のウィルスの研究など…様々な期待をしています。 そのためにも施設の安全管理や何か起きた時の補償などはっきりと示して欲しいです。</p>
29	<p>自治会住民の声を無視している大学側の態度、 住民の方に対してお詫びの気持ちもないのですか、 爆心地の住民の方々に対しても申訳ない気持はないのですか</p>
30	<p>BSL-4施設建設問題から早7年の月日が過ぎ去ろうとする今日、建設が進んでることに憤をおぼえます</p>
31	<p>クルーズ船での、コロナ終息についての長崎大学の貢献は承知していますし、感謝しますが。 施設については別問題のことだと思っています。</p>
32	<ul style="list-style-type: none"> ・「BSL-4施設」は2021年7月に完成予定と聞いておりますが、大学に対して⑤の要望事項は厳守して頂きたいと思います。 ・これまで活動に携わってこられた皆様に感謝の気持ちを申し上げたいと思います。
33	<p>新型コロナウイルスの猛威により、人々の暮らしはすっかり変わってしまい、目に見えないウィルスの恐怖におびえています。BSL4施設は、わざわざ特定地域の風土病であるウィルスを持ってきて研究するものです。今はエボラウィルスの研究よりもコロナウィルス感染の収束を目指して、短時間でのPCR検査、ワクチン、治療薬等の開発に力を尽くして人命を救ってほしいと思います。</p>
34	<p>新型コロナ感染症で、①防ご服もN95マスクも足りず感染防御は不十分であること ②医師も防ご具の装着すら知らず、あわてて長大病院がNEB講義するおそまつぶりである。③知事は何もしなかった。おそまつな国の方針を待っただけ。情報も把握していなかった年寄りである。BSL-4からの病原体ろ出は起こり得ます。起こっても何もできません。コロナで十分解った筈です。司法も勉強不足。判断するに値しない知識しかもっていないと言わざるをえません。</p> <p><u>命ファーストでいくべきです</u> 日本は海外から入国すらshut outしなかった。資源の無い島国はshut outしなくても、日本がBSL-4病原体が強く感染が広がると諸国は日本からの入国はshut outします。敗戦した時のABCD包囲網と同じで、日本は追い込まれます。必ずです。それではダメなんです。コロナで唯一成功したのはニュージーランドだけです。日本は入国を止めなかった。だから3種類ものコロナウィルスが感染拡大したんです。</p>

住民アンケート意見書

<p>34</p>	<p>長大病院にBSL-4を建設させたらダメです。作るなら人工島などにBSL-4建設すべきです。<u>海をはさむべきです</u> 国策を御旗にかかげられても。病原体に何もできないんです。死にます <u>それでは遅すぎです</u> 早くBSL-4建設を中止させるべきです。 <u>稼働させてはなりません</u> 日本の西の端でしなくていいんです。共産国からの攻撃に近いんです。海をはさむべきです。人工島につくるべきです <u>住宅密集地にBSL4を建設したらダメです</u></p> <p>病原体が漏れてもわかりません。コロナも感染したかどうかは検査するまで判断できません。無症状感染者もスーパースプレッダーも区別できません。感染は止められないんです。防ご具も不十分なんです。<u>核と同じです</u> つくらない。もちこまない。もちこませない。なぜ人が困ることをするのか。完全に防御できないものを住宅密集地につくってははいけません <u>もし作るなら海をはさむべきです</u> 研究者が仕事をしやすい場所を最優先し建設させてはダメです。</p> <p><u>住民の命ファーストであるべきです</u>。長崎コロナが起きても河野学長も調も出てこない。熱研とセンター長が対応をただけです。 <u>BSL-4事故に対する責任の所在を明文化すべきです</u>。病院、医療崩壊します。 <u>コロナよりもBSL-4施設による感染拡大は人災として初めから責任をとらせる文書をつくるべきです</u>。人災ですよ。防ご服は不十分。感染場所も不十分。治療も不十分で完治できない。そんな病原体を住宅密集地にBSL-4をつくり扱ってはいけないんです</p> <p>早くBSL-4建設を中止すべきです。 <u>稼働させてはダメです</u>。海をへだてた場所につくり直すべきです。 <u>やり直します</u> 司法判断者はもっと勉強すべきです。判断させるに適した人材なのかのテストを受けさせるべきです。まずは資質評価ですよ <u>初めからやり直し</u>。 <u>住民の命ファーストでいくべきです</u> <u>BSL建設は中止です</u> <u>BSL-4を稼働させてはいけない</u></p> <p><u>海をへだてた場所にBSL-4をつくり直すべきです</u> 命ファーストとして <u>今</u> 感染拡大したら、何も防御できません。そんな状況でBSL-4を建設したらダメでしょう。長崎県民はバカか。目を醒ませよ！！</p>
<p>35</p>	<p>研究者が働きやすい場所にBSL-4を作ってはダメだ。人命密集地に作らせてはいけない。感染防ご服もN95マスクもない。感染診断すらできない。感染経路不明として処理させてはダメである。診断検査も確立されていない。無症状感染者が感染拡大させるスーパースプレッダーがいると大変である。治療もできない。観光地ではなくなる。原爆に続き負の遺産となるリスクが高すぎる。もちこんではダメだ。もちこませてはダメ。稼働させてはダメです。</p> <p>BSL-4建設は今すぐ止めさせるべきだ。人命密集地で研究、開発する必然性は何一つない筈だ。人工島でやれよ！！安全は確保されていない。不足不備がある。致死率が高い病原体である。死に至ります。死に至りうる病原体はもちこんではいけない筈だ。人工島ですればよいだけだ。命ファーストがなぜできないのか。金が動く名誉のためか！！ <u>3密を避けるのが徹則</u> 住宅密集地、人命密集地にBSL-4を作らせるな！！</p> <p>病原体をもちこませるな！！ 防ご服もN95マスクも不足不備である。感染防ごができません。安心も安全も確保できていません！！ 無防です！！ <u>人災を意図的に起こすことは許されない！！</u> 人災を計画 指導 実践する者たちをリストに書き上げ、責任を明文化することが必要である！！</p> <p>ヒューマンエラーはゼロにはできません。100%安全はないんです。致死率の高い病原体を人命密集地にもちこんではならない。非人道である。</p>

住民アンケート意見書

35

命を最優先にすべきである。研究は海を隔てた人工島にカネをつかって作ればよい筈だ。住民の命をおびやかしてまで密集地でやる必然性はない筈だ。

建設したいなら人口島につくれよ。海を隔てるべきだ。長大にBSL-4建設をさせてはダメだ。早く中止させろ！！稼働させてはダメだ。

医師も研究者も防ご服の着脱すらしないことがコロナで実証されました。

そんなレベルの人達にBSL-4病原体を扱う資質はありません。

この状況でBSL-4を建設するなよ！！

想定外のことが起こるんですよ。人間の考えつくものは限られている 歴史が証明している筈だ。危険なものを持ちこんで起こったことは全て人災ですよ！！

これだけ反対している 人命を死に至らせうる病原体をわざわざ反対を押し切り横車を押して無理やり建設したのである 事故はすべて人災ですよ。

人災としての責任を明文化すべきです。病原体感染証明もできず どんな症状がでるかもわからず、被害範囲などわかるはずがない。

レスキューできないことは初めからしなさんな！！ 責任とりきらんことは しなさんな！！ 防ご服もない ワクチンもない 治療もできない 早くBSL-4は建設中止させろ つくるなら人口島をつくってそこに作れ。海をはさむべきだ。人工島に研究者が行けばよいだけだ 誰も反対しませんよ。したいだけ研究したらよいではないか。住民に迷惑をかけてまでして人命密集地で研究しないでくれ 迷惑です！！

他人の生活、安心と安全を奪う権利はない筈だ。非人命密集地 人口島を作ってそこにBSL-4を建設すればよいだけだ。それは誰も反対しません。

しかし人命密集地にBSL-4を建設してはならない。早く中止させろ！！ 稼働させてはならない！！ 原爆で傷ついた人に何を補償できるというのか。 命は1つです。 人生も1日限りです。他人がいやがることはするな！！ 他人の命を犠牲にしてまで研究しなくていいよ 迷惑です！！ 致死リスクの高い人災行為は止めろ！！ もちこんで起こる事故は意図的人災の確信犯である

命ファーストでいくことである。住民の命を第一に最優先に考えるべきである。事故が起きてから 平和、安全、安全を考え直すやり方はダメである。

平和、安心安全が感じられる 今 考えるべきである。BSL-4建設は取り返しのつかないことだからである。そのためには、BSL-4を長大に建設させてはならない。建設は今、直ちに中止すべきである。絶対に稼働させてはならない！！ 間違いは、すぐ改めるべきである。

間違いを知りつつ 迷いながら計画を続けてはならないのである。勇気を出して良心に従いBSL-4建設を中止すべきである。

BSL-4病原体は診断も治療も予防もできません。人の命を奪うもの、人を殺す病原体です。住宅密集地で取り扱うべきものではない筈です。

正直に誠実に行動を考え直すべきです。建設しなればよかったと後悔しない ために考え直すこと、BSL-4建設を中止することです。

建設しなければ 何も起こらない筈です。持ち込んではいけません。

持ち込んだら人災を起こします。人が死にます。

BSL-4は海を隔ててBSL-4施設全体を解離出来る場所に建てるべきです 国策を御旗に間違いを横行すべきではない。

勇気をもって正しい道に方向を転換すべきである。

人としての良心をみせてもらいたい。

住民アンケート意見書

35	<p>新しい生き方を考え直してもらいたい。グローバル化を揚げたやり方の弊害が問題を大きくしている。片峰も河野も調もグローバル化の先頭でカジを取ってきた連中だ。コロナ騒動では何1つ対応も責任もとらなかった。BSL-4病原体による感染拡大は絶対ゼロにはできない筈だ。責任の所在を明文化すべきである。責任をトカゲのしっぽ切りにさせてはならないのだ。</p> <p>一番よいのはBSL-4を建てないことだ。住宅密集地でなく海を隔てた場所にすべきである。早く考え直せ。良心に従えば建設を中止するしかない筈である。なあなあで計画を続行し続けてはダメである。</p>
36	<p>新型コロナウイルスの蔓延により、制限のある不自由な生活を強いられたことをもう一度思い返し、長崎県民、長崎市民には、BSL-4施設で行われる実験・作業・ウイルスの危険レベルを真剣に考えて欲しいと思う。</p>
37	<p>建設予定地は原爆被爆の中心地であり、二度と被害が出ないように願います。その地への建設には驚いております。完全な対策をお願いします。医学的開発はその先の問題と思います。</p>
38	<p>即刻、無人島等の感染リスクの低い場所へ移設して下さい。</p>
39	<p>新型コロナウイルスで世界はいろいろな事で影響を受けています。目に見えないウイルスと向き合っています。生活様式も変わってきています。それより極めて高い感染症の病原体、その危険性を施設が出来ると毎日のように不安に思いながら生活しなくてはなりません。住民の不安な思いを理解していただき、住民の声を聞き、大学には住民の納得する説明を示してほしいです。</p>
40	<p>基本的には、計画の変更、現在地での建設中止と住宅密集地でない場所での建設です。</p>
41	<p>新型コロナウイルスの出現で社会生活が一変してしまったことで、目に見えないウイルスに対する恐怖を改めて思い知りました。BSL4施設は致死率の高い危険なウイルスを扱う場所であり、その施設が100%安全と言えないのであれば、建設場所を再考する必要があると思います。国策だから何かあれば国が対応するといわれていますが、今回の政府のコロナ対策、イージスアショアのうその説明などを見ても、全く信用できません。地方の住民は切り捨てられるのではないかと不安しかありません。</p>
42	<p>エボラこわいです。</p>
43	<p>万が一、ウイルスが漏れた場合を考えると、住宅地に施設を建てるべきではないと思う。</p>
44	<p>施設での研究内容を管理する外部からの委員会が必要だと思う。</p>

住民アンケート意見書

45	<p>今回の新型コロナウイルスで、不顕性感染の恐さを実感した。研究の為に弱毒化したウイルスであっても、外に漏れるような雑な管理をすると、免疫力の差でヒトが「人為淘汰」されることを忘れてはならない。</p> <p>デュアルユース（軍事と民生の両方に使用できる技術のこと）のガイドラインをちゃんと作成することが大事。①研究者のバックグラウンドのチェック項目 ②研究テーマが軍事的なことに関係しているかのチェック項目 ③研究費が防衛省から出ていないかどうかのチェック項目</p>
46	<p>BSL-4施設に関しては、医学の発展を考えると反対ではないが、施設の建設場所については、熟慮して欲しかった。今後は、事故対応、安全管理、補償等を文書化することを徹底し、住民の不安を取り除くため、説明と同意をとれるように努力して欲しい。</p>
47	<p>住宅地、小学校等がある地域での建設に理解できないし考えられない。事故が絶対無いとかの想定での建設としか考えられないし、傲慢である。</p>
48	<p>施設で働く人の種類（学生、研究者、教授等）又、外国の人等、具体的にわかる範囲で。いろんな人が出入りするのが心配、管理がおろそかになる。</p>
49	<p>東日本大震災の時も、福島原発の安全が問われて来たが、「絶対」とは言いきれないと確信した。安全神話は崩れ去った。「想定外」とかたずけてほしくない。</p>
50	<p>今回のクルーズ船のことでは、熱研が活躍したので熱研のいいところだけ見てBSL-4を容認支持する人が増えるのではないかと心配。</p> <p>震災や津波の時間、犬を抱いて助けを呼んだり、ペットがいるので避難所に行けない人の映像をTVでよく見ます。（なぜならペットも家族の1員という時代だから。1人暮らしのお年寄りにはペットが唯一の家族支えで生きている人を多数見てきました。）私もその気持ちがよく理解できます。だから「避難しなければならない状況」にならないようにすることを大前提として、安全対策も徹底して欲しいです。4のア、イ、ウイルス漏れ、感染動物の逃走がないように、どういう安全対策をしてるか、皆が（住民）納得できるように説明して下さい。</p>
51	<p>住民の人にもっとどの位安全に対策がとられてるのか、真実な誠意ある説明会があれば助かります！！</p>
52	<p>武漢でも同様な施設からコロナがもれたと言われているので、建設に反対する。もしもれたら、原発事故の時のように家や仕事を失くしてしまう。</p>
53	<p>コロナのことでBSL-4施設を作るに当たり、無条件に賛成する人が増えてしまうことに不安を感じます。</p>
54	<p>正しい情報が欲しい！1、ウイルスの種類 2、安全対策 3、誰にでもわかる説明も必要</p>

住民アンケート意見書

55	<p>BSL-4施設のような研究施設の必要性については、医療の発展、新薬やワクチンの研究開発のために理解できる。しかしながら、住宅密集地である坂本キャンパスに建設する必要性、妥当性については、全く理解できない。</p> <p>COVID-19の感染が拡大している現況下では、BSL-4施設の建設に対する近隣住民の不安や精神的苦痛は更に大きくなるものと推測する。建設を急ぐ前に、近隣住民の理解、了承を得るための、大学側の真摯な説明や情報提供を求めたい。</p>
56	BSL4施設建設の中止
57	<p>大学に要望することは、住宅地に建設しないで欲しい。リスクの少ない過疎地に作ることはそんなに難しいことではないと思う。国策なら、万全を計るべき。</p>
58	<p>住民への緊急時の対策処要項を施設完成前に周知徹底してもらいたい。</p>
59	<p>新型コロナウイルス感染拡大をうけて、ウイルスの恐ろしさと身近な問題であることが分かりました。緊急時、私たちはどうすればいいのか、どこに避難すべきかをしっかり安全対策として知る必要があるので、このような施設を住宅密集地に造っている以上、住民に対して危機管理対策や避難計画を、だれにでも分かるように示してほしい。</p>
60	<p>坂本設置が妥当とする、田上市長の根拠を知りたい。</p>
61	<p>人的ミスは100%否定できない。大学に要望することは、施設の計画を白紙撤回してほしい。</p> <p>「我が国のバイオセーフティーレベル4（BSL-4）施設の必要性について」（2014、3、20 日本学術会議の提言）を関係各位に熟慮頂きたい！</p>
62	<p>人間がやることに絶対安全は言えないと思います。以前参加した説明会で、そう（絶対安全）言われましたが、リスク管理への説明が不十分でした。全く誠意が感じられませんでした。</p> <p>この平和を引き継いでいかなければならない地区に研究施設を設立することが、理解できません。住民の危険ばかりでなく、世界遺産、平和遺構施設も存続できなくなると思います。古い建物を簡単に破棄すべきではありません。古い物は古いものとして残すべき。先人たちの遺産です。</p> <p>この地区での施設の運営を反対します。</p>
63	<p>人為ミスが100%ないと言えないのに、住宅地に造ることが無茶な計画。日本は何かあったときの情報開示が遅いため、対応が後手になる。何かあればすぐ「想定外でした」と逃げられます。</p>

住民アンケート意見書

64	<p>今回、コスタアトランチカの感染であたかも長崎大学が単独で感染を制御したかのような報道がなされたが、事件が勃発した時にまず県知事が出した指示は、D-MATの要請と自衛隊の派遣依頼である。陣頭指揮は厚労省クラスター班の鈴木基医師がとった。長崎には感染症の専門家が非常に多く、管理能力（BSL-4の）が高いと言われていたが、いざとなると県外の専門家に頼らざるを得ない事が浮き彫りになった。大阪府が独自にコロナ対策を進めているのと好対照である。今後、BSL-4の長崎大学での運営は難しいのではないかと不安である。</p> <p>コロナワクチン開発もできないのに施設を作る意味があるのか。</p> <p>唯一LAMP法による診断キットを作ったが、キャノンとの共同研究で同様のキットは既に10種類弱もあり、他社製では保険収載されたものもある。長崎には感染症の専門家が多いという話は信じ難い。</p>
65	<p>中国の武漢の研究所との安全性の違いを詳しく説明してほしい。研究は必要だと思いますが、これだけ安全性を主張するなら、東京大学のだ真ん中の最も便利の良い場所で研究して欲しいと思います。</p> <p>長大も、市も、県も信用できません。研究者が何らかの理由で勝手に持ち出す事も考えられます。対処方法は考えてあるのでしょうか？（これは、数年前、ドラマにもなっています）</p>
66	<p>ウイルスは人の目には見えず、施設をからの漏洩を直接、監視・確認することができない。新型コロナウイルスのように不顕性感染のするウイルスも存在し、この度の感染症も、感染したことに気付かないまま軽症者や不顕性の人達が出歩き、感染が拡大していった。その結果として、医療崩壊寸前まで起きた。</p> <p>新型コロナウイルスのようなRNA型遺伝子を持つウイルスは、その増殖時に遺伝子情報の転写ミスが発生しやすいので、BSL4施設で扱うウイルスでも増殖途中で変異し、例えば、不顕性感染しないウイルスが不顕性感染するものに変異するなどの危険性が否定できない。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大をみると、BSL 4 施設が設置されている国々でも感染が拡大しており、BSL4施設は、ウイルスの感染拡大の防止には、直接、役には立っていない。つまり、BSL4施設近隣の市民にとって、BSL4施設が住宅密集地にある必要性はおろか、メリットすらない。</p> <p>これらのことから、大学の発展という目先の利益の追求のために住宅密集地にBSL4施設を建設することは、あまりにも利己主義が過ぎると言わねばならない。研究とは無関係の市民の命と引き換えにすることは許されない。</p> <p>人類の存続を考えるなら、住宅密集地から離れたところで、国全体・世界全体で研究することが、真のグローバル化。『一旦立ち止まる勇気を持って、考えて欲しい。』</p>
67	<p>施設がつくられても、安全性が確保され住民の同意が得られるまで、稼働しないでほしい。</p>
68	<p>薬やワクチンの開発や技術者の育成は必要と思うが、日常的に医学部でなされるべき。わざわざBSL4を口実にしないでほしい。</p>

住民アンケート意見書

68	<p>ウイルスや細菌の専門家たちが危険を冒してまでも研究しようと思うのは、この事業にはお金がついてくるからだと思う。まさに「御用学者になりはてる」だ。大学側のすべき事は、研究にふりむけられる予算を十分に獲得することのはず。今、コロナの渦中にあって、細菌等の専門学者たちのすべきことは、国民をコロナから守るための研究とその成果を早く出すことではないのか。</p> <p>日本で広がりそうもないアフリカの菌などを研究するより有意義。現地に行つての研究ならまだしも。かつて「研究」と称して戦時中に中国で人体実験を行ったのも医学者たち。医学は平和のためにこそ寄与すべきだと思う。731部隊の教訓は医学者やそれを動かす政治家が絶対に忘れてはならない（特に長大は）ことだ。現在の知識や技術を駆使して、コロナとの平和的共存の為、がんばってほしい。</p>
69	<p>日本にいない菌を持ち込んで研究がなされると聞きました。事故がおきないという保障はないのでとても怖いです。長崎から出て行かなければならないでしょうか。</p>
70	<p>菌を他国から輸入してまで長崎の施設でするのはおかしい。</p> <p>緊急時の住民の安全なくらしをどうやって守るのかを知りたい。避難させて隔離する方向での計画はごめんです。</p> <p>研究の内容・現状は論文で常に公開してほしい。</p>
71	<p>エボラウイルス等の実験施設は世界規模で作るべき、なぜ長崎大学なのか。</p>
72	<p>長崎医大の施設での研究は反対！薬やワクチンの開発も技術者の育成も当方（当地）で努力して成果を上げてほしいこと。</p> <p>5の内容は施設が出来てしまつてからの要望ととらえます。施設そのもののありように反対です。</p>
73	<p>施設稼働を許すことはできません。</p> <p>内外の研究者が多数参加する訳で全てコントロールできない。研究費は国の予算から出る。その予算の獲得の為にヒモつき予算を得ようとする。その結果、馬の前につるされたニンジン欲しさに研究が軍事的意味をもつものに変容しやすい。そのことにブレーキをかけることは不可能だ。（予算欲しさに軍事研究に走るということ）</p>
74	<p>住民の合意もなく、情報開示もなく、絶対安全もない、施設建設及び稼働はストップすべき。今回の新型コロナより強毒のウイルスをわざわざ国内に持ち込んで実験するなど、言語道断です。遺伝子操作の実験で、どんなウイルスが生まれるのかも恐いです。長崎に何の愛着もない名誉欲にかられた人たちがやってきて、どんな実験をするのかわからないと思います。</p>
75	<p>私達夫婦は高齢であるが、子や孫が近くに住んでいて、万が一のことがあったらと不安です。この不安が一つ一つ解消されますよう、いろいろな機会に事故その他の対応策を具体的に示して欲しい。</p>
76	<p>研究対象のウイルス（BSL-4に保管しておくウイルス）を、導入する前に住民に示して欲しい。</p>

住民アンケート意見書

77	今回の新型コロナにより、長崎県知事、市長の対応の悪さが目立ち最低だった。長大の対応がどうなるのかはわからないが、県や市のトップがあれば安心できない。責任所在もわからない。
78	情報公開の不足。リスク管理をきちんとして欲しい。
79	研究内容を公開すべき。扱っている病原体を公開すべき。
80	最近の説明会には行けてませんが、以前、何度か行かせてもらった時は、失敗しません、しても自分達は安全です、としか言っていないように聞こえ、住民のことまで考えているように受け取れませんでした。長崎大はDrXの米倉涼子さんみたいな方ばかりなのではないでしょうか？北朝鮮情勢などもあり、近隣にあることはやはり不安ですね。長年携わって下さる皆様、いつもありがとうございます。また、よろしくお願い致します。
81	人のミスが一番危ない、「絶対安全」はない。大学に要望することは、建設をとりやめてほしい。
82	今回のイージスアショアの建設中止の件もあり、計画中止の選択肢も再考してもらいたい。
83	長崎大学は地方の地域大学であり、地域の住民（市民）と共に歩むべく教育機関ではないのか？地域の住民（市民）の健康と生命を脅かすこの施設、この地区に生活している住民としては、長崎に常に不信感を禁じ得ない。学者、研究者のエゴ、利己的な考え方で地域住民が何で犠牲にならなければならないのか。理解に苦しむ。
84	大学も住民の皆さんに真実を正直に話すべき時期が迫っている。建屋が出来上がったので、既成事実にするのはひきょうである。市民に対する背信行為に等しい。住民の皆さんの信条を更に深く掘り下げて吟味すべきである。周知、PRの方法を今一度考慮すべきである。
85	今、私達は新型コロナウイルス（疫病）の猛威を経験する中、今日の社会は疫病に対して脆弱で有る事が解った。私達はこの新型コロナウイルスを知り反省する時、BSL-4を脆弱な市中心部に設ける事は極めて危険で有る事が改めて解った。族長は今回の反省を踏まえ、民の安心安全を最優先に再考すべき時。
86	長崎大学医学部は原爆で大勢が犠牲になっている。今は核兵器廃絶研究所を設けて核廃絶を訴えている。核兵器は抑止力になっているという。核兵器必需論を偶発的な事故が起こりうることも理由にあげて抑制している。それとこの施設が安全（絶対に事故は起きない）と、住宅地に作ることの矛盾が、なぜわからないのだろうか？

住民アンケート意見書

87	<p>。おおかたの市民が建設反対する中、無視同然のように建設着行された大学の姿勢にア然としている。私達が心配する疫病流行が目の前でおこりました。ここ歴史ある平和で美しい街の長崎がコロナ発生の源の街、武漢の二の舞いにならないか心配している。後日の長崎の姿を見せられるようです。第3番目の国策による大悲劇の街にならないように研究施設の建設は中止して欲しいです。ウイルス輸入はもつてのほかです。</p>
88	<p>新型コロナの目に見えない病原菌と同じようなものが、大学内にあると思うと恐怖。</p>
89	<p>何があるかわからないので、何事も隠せないような誰もがすぐ分かるようなシステムにしてほしい。</p>
90	<p>机上の空論で安心安全を伝える医者の気持ちが判らない！</p> <p>医者・学者達の身勝手な都合で、町中にウイルスの研究施設を作るなど気が知れないし、それを許可する市や県の間人もどうかしているとしか言えない。「お前達は、バカか？」である。</p>
91	<p>技術力を過大評価しすぎて、ほんの小さなミスで、取り返しのつかない事がおきても”想定外”のひと言で、済ませるのではないかと心配しています。</p>

(2) 山下 肇 委員提出

新型コロナの最前線で健闘されている医療従事者には心より感謝申し上げます。そのような中、以下のような質問するのは、非常に心苦しい思いはありますが、今の状況だからこそ、聞くべき事項もあると思っています。

以下の質問を提出させて頂きますので、ご回答を頂きますようよろしくお願いいたします。

1 長崎でのコロナに関して

- (1) 長崎大学以外の大学病院においてコロナウイルスの陽性者が複数発生した案件はあるのか。
- (2) 長崎大学はウイルス研究の拠点の一つであり、だからこそ長崎大学にBSL4の施設を作ると聞いていたのに、なぜ、このような事例が発生したのか。市中感染が始まっているということなのか。
- (3) そもそも長崎大学医学部や長崎大学病院は医療関係者や研究者の新型コロナウイルス感染防止の取り組みをどのように行っているのか（例えば、教授主催の飲み会は禁止、〇〇人以上の会合は禁止等）。
- (4) 今回の医師の感染は、長崎大学病院のマニュアルに違反した結果なのか。
- (5) 長崎大学医学部と長崎大学病院が同じ組織だとすれば、患者を含めた病院内での感染防止のガイドラインはどのようなものがあったのか。それは、他の病院特に大学病院と比較して十分なものであったのか。
- (6) 今後の発生防止に関して、どのような対応を考えているのか。

2. 長崎大学医学部のレベルについて

毎日複数テレビでコロナ関連のニュースを見ていますが、長崎大学の教授が全国版のニュースに出られたのは、安田教授がニュースステーションに出演された時しか拝見していません。長崎大学の関係者は、どの程度全国版のニュースに出ているのか。

3. 新型コロナウイルスについて

- (1) 新型コロナウイルスは、ウイルスの中ではどこに分類されているのか。
- (2) グループ4でなかったとすれば、どうしてグループ4でないのか。グループ4は、一般的には、「ヒトあるいは動物に生死に関わる程度の重篤な病気を起こし、容易にヒトからヒトへ直接・間接の感染を起こす。有効な治療法・予防法は確立されていない。多数存在する病原体の中でも毒性や感染性が最強クラスである。」と定義されていると思うが、どうして今回の新型コロナは、グループ4ではないのか。欧米での致死率、全世界での感染力を考えれば、一般人からみれば、グループ4に該当すると思えるのだが。
- (3) 当然、長崎大学医学部でも新型コロナの研究は行っているものと考えられるが、現在どのレベルの施設で研究が行われているのか。

(4) 仮に、BSL-4 の施設があった場合には、新型コロナは、BSL-4 で研究されていたのか。

4. 地域連絡協議会について

今回、地域連絡協議会が延期されたことは英断だと評価しています。しかしながら、今後施設が仮にできた場合にも、今回と同様に地域連絡協議会（その頃には、名称も構成も変わっている可能性はありますが）は延期されるのか。仮に延期されるとすると、住民に対する情報提供はできるのか。

(長崎大学の回答)

1. 長崎でのコロナに関して

- (1) 症状がはっきりと表れない段階でも感染力を持つ新型コロナウイルス感染症の特徴が現れているのだと思いますが、他の大学病院でも複数の陽性者が発生したことがあるようです。
- (2) 症状が現れていない感染者が市中に一定数いる場合に、完全に感染を防ぐことは非常に困難です。今回の長崎大学病院での感染事例は、研究中のミスで生じたり、病院内での不適切な対応のために感染者が発生したり広がったわけではありません。むしろ、感染拡大を未然に防ぐ観点から、通常よりも一段厳しいスクリーニングをかけたことで感染を別の病院へと広げないことに水際で成功したと考えています。丁寧に検査を行い、症状が現れない段階で陽性者を確認し、大学病院外に広がる芽を摘んだと考えています。
- (3) 例えば長崎大学病院では、1月23日には対応マニュアルを作成し、大学病院のイントラネットで情報を共有していました。このマニュアルでは、個々の職員の行動制限だけでなく、対応方針について広範に、細かく指示しています。
- (4) 感染そのものは、マニュアルにより指示された内容に違反した結果ではありません。
- (5) 上記で触れたように、長崎大学病院では1月23日には対応マニュアルを作成して対応してきました。大学病院の対策については、他の大学病院と比べても最高レベルの対応をしてきたものと考えています。
- (6) 今回の新型コロナウイルス感染症に関しては、不顕性感染や発症より数日前から感染させる事例が多い状況を考えると、完全に、陽性者の発生を防ぐことは困難であろうと考えています。そこで、長崎大学病院では院内での感染拡大防止はもちろん、陽性者をいかに早期に発見し、長崎大学病院から外に広げないためにどうすべきかを考えて行動しています。

2. 長崎大学医学部のレベルについて

大学、研究者の本務は研究にあります。今回のコロナウイルス感染症のように、診断方法、ワクチンや治療薬の研究開発等が喫緊の課題である状況において、感染症研究に実績のある長崎大学及びその研究者は、研究開発に注力することが社会から最も求められていることであり、期待に応えることになると考えて対応しています。今はメディア露出をはじめとするアウトリーチ活動よりも研究に集中すべき時期という認識で、マスコミからの

お声がけも多くはお断りしてきました。

3. 新型コロナウイルスについて

- (1) いつも説明しているバイオセキュリティレベル（BSL）でいうと、BSL-3に分類されています。
- (2) 厚生労働省により、1月末の段階で、「新型コロナウイルス感染症の病原体を取り扱う施設はBSL-3及びABSL-3の基準を満たすこと」とする事務連絡がなされており、現在、その厚労省の指示のもとに全国で研究が行われています。
- (3) 現在、長崎大学でも、BSL-3施設で研究を進めています。
- (4) 新規の病原体をどのレベルの施設で扱うかについては厚生労働省が定めることとなりますので、厚労省の指示に従って研究を実施することとなります。

4. 地域連絡協議会について

施設の運用段階に入っても、以前から申し上げている通り、地域の皆様に情報をお伝えし、協議する場を持ちたいと考えています。一方で、今回のようなコロナウイルス感染症拡大に限らず、何らかの理由で会議を開けないことも予想されます。そうした場合でも、必要な情報は必ず伝達するということを実現するため、情報提供と議論の方法について最善の準備を進めます。